# 3.5.5. Fishbowlからのデータ取得方法

この文章では、次を説明します。:

- FishbowlとGMDH Streamlineでの重要用語対応; and
- データインポートワークフロー.

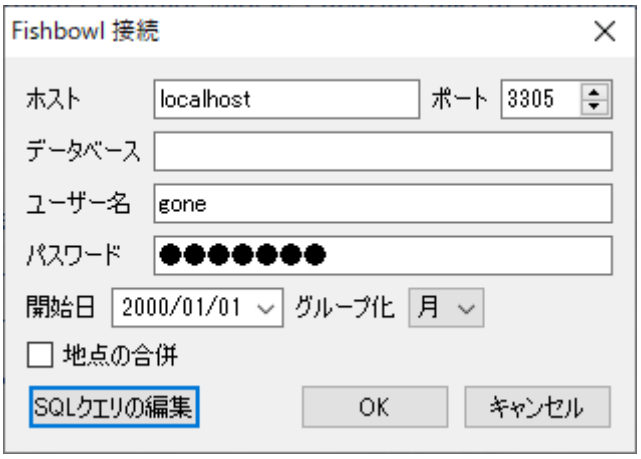
## 重要用語

Fishbowlが管理する重要用語には、パーツと地点グループがあります。Fishbowlには、いくつかのパーツタイプがあります。GMDH Streamlineは、在庫品目タイプのパーツタイプを品目として、地点グループを地点として扱います。

## データインポートワークフロー

次の手順に従い、FishbowlデータからGMDH Streamlineのプロジェクトの新規作成します[1)]。:

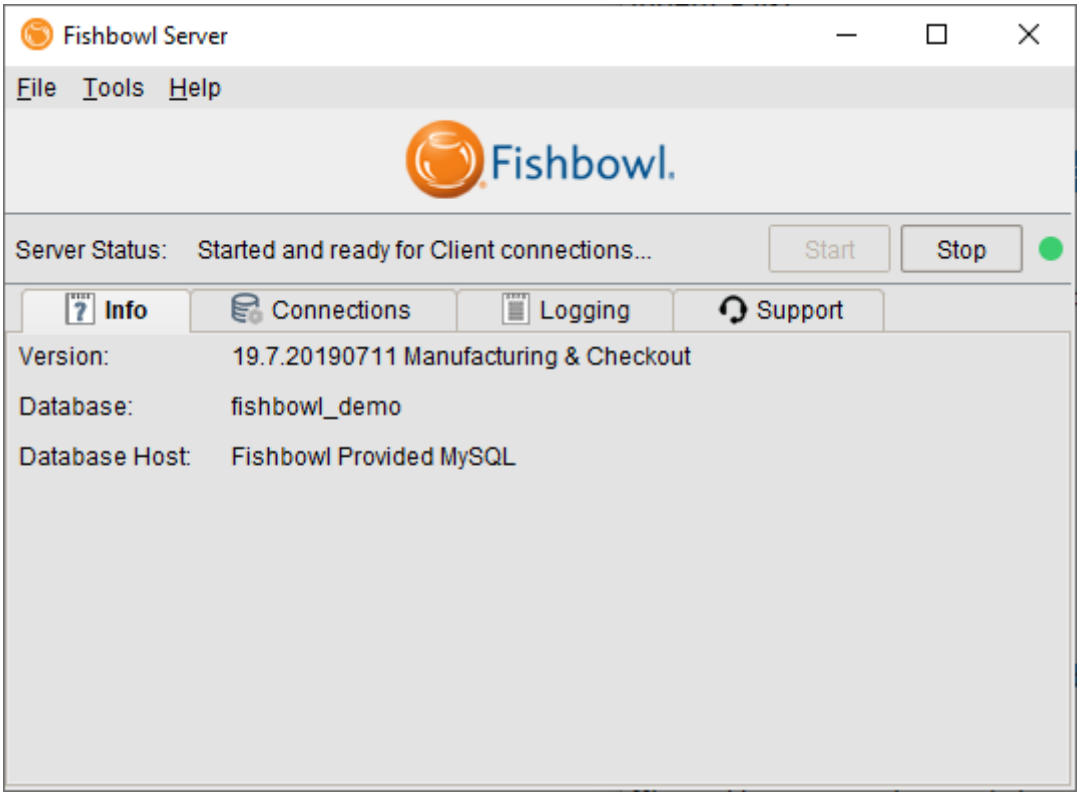
1. メニューよりファイル > 新規 > Fishbowl 接続を選択します。Fishbowl 接続ダイアログが表示されます(下記の図を参照)。



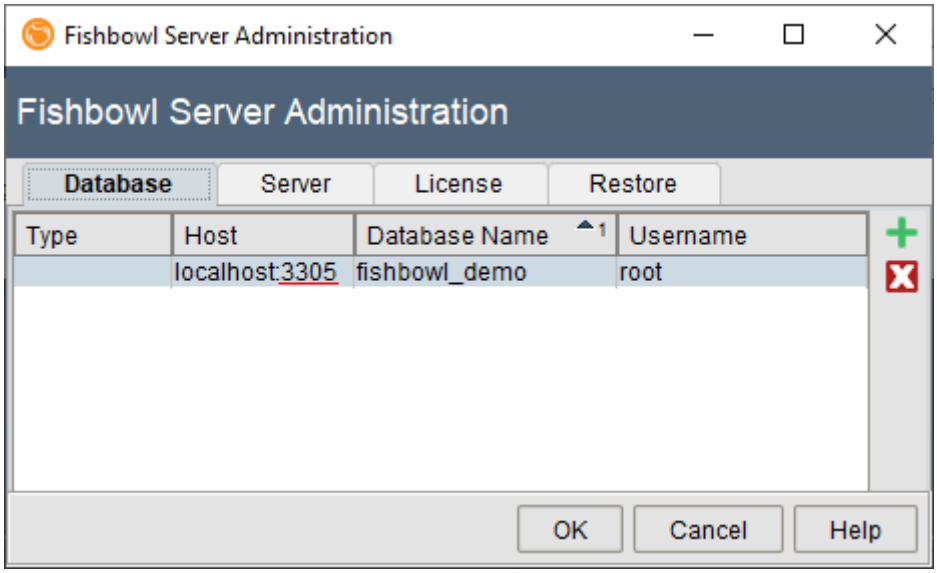

2. Fishbowl サーバーが実行されているサーバーのホスト名(またはIPアドレス)をホストフィールドに入力します。localhost オプションは、デフォルトで設定されています。これは、Fishbowl サーバーがインストールされたPCにてGMDH Streamlineが実行されていることを意味します。

3. MySQL データベース 接続のポートをポートフィールドに入力します。GMDH Streamlineは、デフォルトであるFishbowlポート3305を利用します。動作しない場合、次からの手順を行い、適切なポートを見つけます。:

3.1.タスクトレイにあるFishbowl サーバーアイコンをクリックします。Fishbowl サーバー ウィンドウが開きます(下記の図を参照)。




3.2. メニューより**ツール** > **オプション**を選択します。**Fishbowl サーバー管理** ウィンドウが開きます(下記の図を参照)。




**ホスト**列のコロン(':')以降にある**ポート**を見つけます(上記の図を参照)。

4. 接続先のFishbowl データベース名称を、**データベース** フィールドに入力します。この名称は、Fishbowl サーバー管理ウィンドウの**データベース名** 列にあります。

5. データベースへの読み取り権限のあるMySQLユーザーのユーザー情報を、**ユーザー名**フィールドと**パスワード**フィールドに入力します。GMDH Streamlineは、Fishbowl データベース コンポーネントのデフォルトのMySQLユーザーのユーザー情報を事前に設定します。

6. インポートを開始する日付を、**開始日** コントロールに入力します。



精度の高い予測を作成するにはGMDH Streamlineに*少なくとも24か月*の販売履歴を設定することを強くお勧めします

2020/09/29 06:44
7. **タイムスタンプのグループ化** コントロールから、データ集計期間を選択しますGMDH Streamlineが、設定された期間(日単位または週単位または月単位)自動で集計します。例えば、予測や補充計画やその他のレポートを月次単位で確認したい場合、月別にデータを集計します。

8. **OK**をクリックして、インポートを開始します。

# インポート オプション

- **地点の合併**オプションは、すべての地点を1つにまとめることができます。このオプションは、各倉庫が並んでいるために、1つの統合された倉庫として計画をしたい場合に便利な機能です。
- **SQLクエリの編集**は、データベース 接続 ダイアログを開き、デフォルトの SQL クエリをカスタマイズして、ユーザーの要件に合わせます。

---

次へ:Micronet (Australia)

PDFダウンロード

[1)]
翻訳者注釈: FishbowlはデータベースにMySQL データベースを利用しているため、接続の説明にはMySQLを利用したデータベース 接続と似ている記述が多数あります。

From:
https://gmdhsoftware.com/documentation-sl/ - **GMDH Streamline Docs**

Permanent link:
**https://gmdhsoftware.com/documentation-sl/ja:fishbowl-connection-guide**

Last update: **2020/09/26 13:44**